

幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制の確保方策等

1 令和3年度の需給状況（計画に対する実績）

- ・ 量の見込み(保育ニーズ)の実績値である申込者は、2号認定は109.0%と計画値を上回り、3号認定においても108.9%と計画値を上回った。
- ・ 確保方策(利用定員)の実績値である利用定員は、2号認定は98.7%、3号認定は95.6%と概ね計画どおりである。
- ・ 2号認定及び3号認定とも、計画した量の見込み(保育ニーズ)を上回る定員を確保したが、実際の保育ニーズが計画値を上回ったことにより、3号認定で定員の不足が生じた。
- ・ 計画中間年となる今年度、量の見込みにおける計画値と実績値に±10%以上の乖離が生じた市町は、原則計画の見直しを行うこととされている。

【表1 令和3年度の需給状況】(単位：人)

区 分	2号認定（3歳～就学前）			3号認定（0～2歳）		
	量の見込み (保育ニーズ)	確保方策 (利用定員)	過不足	量の見込み (保育ニーズ)	確保方策 (利用定員)	過不足
	A	B	C=B-A	D	E	F=E-D
計画 (a)	37,379	45,660	8,281	32,864	35,780	2,916
実績 (b)	40,743	45,071	4,328	35,794	34,223	△1,571
割合 (b/a)	109.0%	98.7%	—	108.9%	95.6%	—

※ 実績値は令和4年1月1日現在の値を適用(本プランは、年度中で最も保育ニーズがあると見込まれる時点の数値で策定)

2 保育所待機児童(待機児童数については、計画(評価)年度の次年度4月1日時点で評価)

- ・ 県内の待機児童数は5市町で23人と、子ども・子育て支援新制度が施行された平成27年以降で最少となった。待機児童23人のうち、3歳未満児が20人で全体の87%【表2～4】
- ・ 申込児童数に対して利用定員数が上回っているものの、一部市町においては申込者の増加に対して定員の増加が追いついていないことや、保育士不足などにより利用できなかったことから、待機児童が発生している。

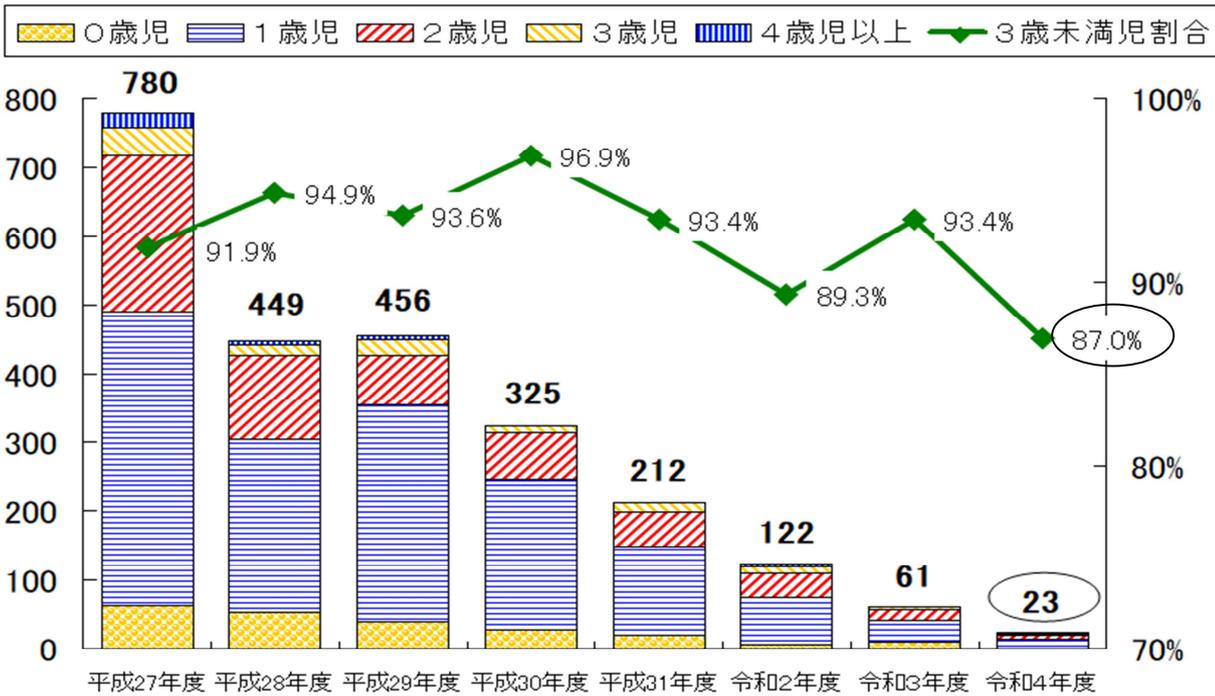
【表2 申込児童数等の状況】(単位：人)

区分		令和4年4月	令和3年4月	増減
利用定員数 (※認可外除く)	A	76,985	75,844	1,141
申込児童数	B	68,897	69,300	△403
利用児童数	C	67,203	67,337	△134
利用できなかった児童数	D = B-C	1,694	1,963	△269
他施設を利用	E	517	527	△10
求職活動を休止	F	62	111	△49
特定の保育所等 のみ申込み	G	910	1,132	△222
育児休業延長	H	182	132	50
小計	I = E+F+G+H	1,671	1,902	△231
待機児童数	J = D-I	23	61	△38

【表3 市町別待機児童数】(単位：人) ※表左側が待機児童が存在する市町、右側が解消した市町

市町名	令和4年4月	令和3年4月	増減	市町名	令和4年4月	令和3年4月	増減
函南町	16	27	△ 11	湖西市	0	14	△ 14
森町	3	11	△ 8	袋井市	0	2	△ 2
清水町	2	2	0	裾野市	0	2	△ 2
三島市	1	1	0	伊豆市	0	1	△ 1
伊東市	1	1	0	合計	23	61	△ 38

【表4 年齢別待機児童数の推移】(単位：人)



3 今後の対応

区分	内容	
適正な保育の受け皿の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・保育ニーズを踏まえた、保育所や認定こども園等の配置 ・小規模保育事業所等、多様な保育の促進 	
保育人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在保育士の復帰支援や保育士修学資金等の貸付 ・保育士の処遇改善と資質向上のためのキャリアアップ研修の実施等 	
令和4年度事業概要	保育士試験合格応援事業	保育士筆記試験の合格対策講座の実施
	保育士・保育所支援センター事業	保育士等のマッチング、無料職業紹介・相談、就職説明会の開催など
	保育士等キャリアアップ研修事業	専門性の高い指導的役割を担う保育士の養成を目的とした、処遇改善の要件となる研修を実施 *集合研修やeラーニングを併用
	保育士等働き方改革推進事業	ICTを活用し業務改善に取り組む保育所等に対し、巡回支援を実施し、事例集を作成。ICTを活用した業務改善促進セミナー、PR動画の制作の実施。

放課後児童クラブの量の見込みと提供体制の確保方策等

1 令和3年度の需給状況（計画に対する実績）

- ・ 放課後児童クラブの量の見込み(ニーズ)の実績値は、低学年は計画値の96.8%、高学年は72.8%となった。確保方策(利用定員数)は、97.9%と概ね計画どおりである。

【表1 令和3年度の需給状況】（単位：人）

区 分	量の見込み（ニーズ）			確保方策 (利用定員数) B	過不足 (需給ギャップ) B－A	充足率
	計 A	低学年 (小1～3)	高学年 (小4～6)			
計 画 (a)	37,154	29,877	7,277	39,093	1,939	105.2%
実 績 (b)	34,216	28,918	5,298	38,272	4,056	111.9%
割合 (b/a)	92.1%	96.8%	72.8%	97.9%	—	—

2 放課後児童クラブ待機児童数

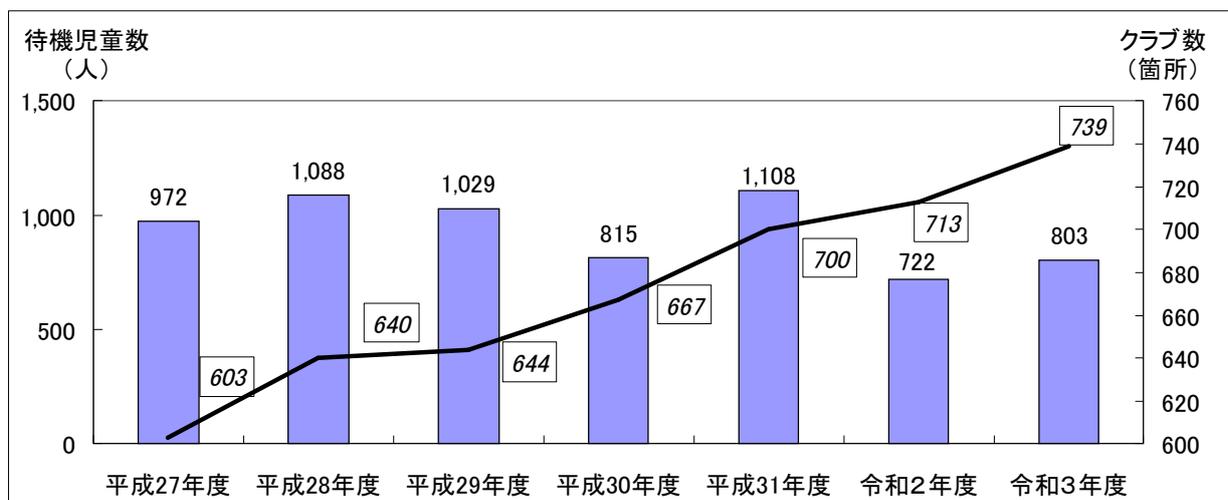
- ・ 令和3年5月1日時点の待機児童数は803人で、前年度の722人から81人増。需要が前年度よりも大幅に伸びたことに伴い、待機児童数が増加した。
- ・ 放課後児童クラブ数は施設整備により着実に増加している。

【表2 放課後児童クラブ登録児童数等の状況】（単位：人）

区 分	令和3年5月	令和2年7月	増減
登録児童数 (放課後児童クラブ利用児童数)	34,216	32,733	1,483
待機児童数 (利用できなかった児童数)	803	722	81
放課後児童クラブ数	739	713	26

※令和2年度は、調査時点が例年の5月1日から7月1日に変更

【表3 放課後児童クラブ待機児童数等の推移】



- ・ 上記のように、需給が充足状態であるにもかかわらず、待機児童が発生しているのは、

学年別に見て、特に小学3年、4年生の需要が高い（全体の71%）ためである。

【表4 学年別登録児童数及び待機児童数】（単位：人）

区分	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	合計
登録児童数 (割合)	11,348 33%	10,192 30%	7,378 21%	3,418 10%	1,306 4%	574 2%	34,216 100%
待機児童数 (割合)	62 8%	65 8%	256 32%	312 39%	92 11%	16 2%	803 100%

3 待機児童解消の取組

受け皿の量的拡大	市町が子ども・子育て支援事業計画に基づき実施する、地域ニーズを踏まえた施設整備を支援
従事者の確保	資格取得や資質向上のための研修や、保育士・保育所支援センターによる支援員のマッチングを実施することで、必要となる職員を確保